

総 合 教 育 会 議 会 議 録

会議の名称	平成30年度第1回山口市総合教育会議
開催日時	平成30年11月12日（月）午後1時50分～午後3時30分
開催場所	大殿小学校
公開・部分公開の区分	公開
出席者	山口市長 渡辺 純忠 山口市教育委員会 教育長 藤本 孝治 委員 佐々木 司 委員 横山 洋之 委員 竹内 芳雄 委員 佐藤 真澄 委員 山本 晃久 大殿小校長 磯村 勇
欠席者	委員 宮原 久美子
事務局	総合政策部長 中谷 尚夫、総合政策部次長 山田 豊成 企画経営課長 今井 宏二 教育部長 藤本 浩充、教育部次長 吉村 計広 教育総務課長 中村 武司、教育施設管理課長 伊藤 順子 学校教育課長 重枝 謙二、社会教育課長 井上 久子
次第等	【次第】 1 授業視察 2 会議 （1）市長挨拶 （2）議事 ・ICT教育の推進 ・外国語教育の推進 ・地域とともにある学校づくり 3 閉会 【資料】 ・ 次第 ・ 平成30年度第1回山口市総合教育会議議事資料

内容	1 授業視察 午後 1 時 5 0 分～午後 2 時 2 5 分 2 会議開会 午後 2 時 3 0 分 開会 ○藤本教育部長 それでは、ただ今から、平成 3 0 年度第 1 回山口市総合教育会議の会議を開催いたします。 私は、この会議の進行を務めさせていただきます、教育部長の藤本です。よろしくお願いいたします。これから先、着座にて司会させていただきます。 それでは、最初に、本会議の主催者でございます渡辺市長から、御挨拶をお願いいたします。 (1) 市長挨拶 ○渡辺市長 改めまして、皆さん、こんにちは。今年度第 1 回目の総合教育会議の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。教育委員の皆様方、そして、本日の会場でもございます大殿小学校の磯村校長先生におかれましては、平素から教育行政の推進を通じまして、本市の子どもたちの教育環境、そして社会教育環境の向上のために多大なる御尽力を賜っておりますことに対しまして、まずもって厚くお礼を申し上げます。 さて、本市におきましては、本年の 4 月から今後 1 0 年の本市のまちづくりの基本計画となります第二次山口市総合計画によるまちづくりがスタートいたしております。この総合計画では、その目指す将来都市像を「豊かな暮らし 交流と創造のまち山口 これが私のふるさとだ」としておりまして、広域県央中核都市づくりや教育、子育てなら山口など、8 つの重点プロジェクトを推進することによりまして、住んでみたい、住み続けたいと心から思える定住実現のまちづくりに全力で取り組んでいるところでございます。 とりわけ教育分野におきましては、将来を担う子どもたちを育むプロジェクトといたしまして、今申しましたように、教育、子育てなら山口を掲げておりまして、技術革新やグローバル革新の点など、社会環境が大きく変化する中においても、子どもたちが将来にわたって夢を持ち、その夢に向かって自分自身でその未来を切り開いていける生きる力を身につけられるよう、教育環境のさらなる充実に取り組んでおります。 少し具体的に申し上げますと、先ほどの授業視察にもございましたとおり、タブレット端末等を活用した I C T 教育の推進を初め、A L T の増員や外国語の学習時間を確保するなど、次期学習指導要領の完全実施を見据え、外国語教育にも力を入れているところでございます。 どうか、皆様方におかれましては、こうした新たな取り組みに御理解をいただきまして、そしてまた、本市の教育行政のさらなる推進に向けて、引き続き一層のお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。
----	--

これからの会議では、先ほどの授業視察の状況を踏まえながら、教育行政に関するさまざまな課題や、今後必要となる取り組み等につきまして、教育委員会の教育委員の皆様方としっかりと議論を深めてまいりたいと思っております。どうか委員の皆様方におかれましては、忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日は、どうかよろしくお願いいたします。

(2) 議事

○藤本教育部長

ありがとうございました。

それでは、議事「先進の教育環境づくり」に移らせていただきます。本市における取り組みの状況や概略につきましては、お手元の資料を御覧いただきたいと思います。

それでは早速ですが、磯村校長先生に、小学校現場の状況などについてお話いただき、その後、皆様から御発言をいただきたいと思います。

それでは、磯村校長先生、お願いします。

○磯村校長

失礼いたします。本日は委員の皆様方、本校にお越しいただきまして、また、子どもたちの学びの様子をご覧いただきまして、大変ありがとうございました。まずもってお礼を申し上げたいと思います。

3つの授業を見ていただいたのですが、1年生については地域とともにある学校づくりということで、この大殿地域の方々と子どもたちが学校で、触れ合う場面をできるだけふやしていきたいという思いがございます。やはり子どもたちのコミュニケーション能力でありますとか、できたときに周りの大人の方が手をたたいて喜んでくださることで、いわゆる自己肯定感というものが高まっていく、そのきっかけというものが触れ合いの場で多く見ることができます。

そうしたことで積極的に進めておるわけですが、今日、30名以上の地域の方に来ていただきましたが、この方々をお招きするに当たっては、まず学級担任と、それから地域コーディネーターが話をします。地域と学校のカリキュラムとを結ぶ役の地域コーディネーターが非常勤ではありますが本校に2名ほどおります。コーディネーターは地元の人ですので、そういうお話だったら、そこのおじいちゃんに電話したら、二、三人集めてきてくれるよとかいった情報を非常に多く持っております。コーディネーターと担任とが協力をしまして、地域の方々を、今日こういうことがあるから来てくれますかということで集めてきます。

一の坂のホタルを飼育する活動にもかかわっておりますけれども、同じように何年生にこういったことを教えたいからといったときには、その地域のホタルに詳しい方がいるよというようなこと、地域コーディネーターを市で配置していただいております関係で、非常にスムーズに地域の方が学習の中に入ってきていただけるという環境が整いつつあるという状況でございます。

おかげさまをもちまして、子どもたちはごくごく自然にそれを受け入れております

し、教員も、地域の方に子どもたちを見ていただいて、そして、地域の方と言葉を交わすということが、子どもたちの成長に役立つ、効果があるということを教員が目当たりいたしますので、より積極的になってくるという部分があるかと思います。

昨日も、ふるさと祭りには、教員がたくさん出てまいりまして、皆で揚げパンをつくって、あっという間に完売したということもございます。そういったことも含めて、非常に重要なことかなというところでございます。地域コーディネーターの役割というのは、大きいものがあるかと思っています。

続いて、ICT教育でございますけれども、タブレット端末、今日子どもたちが使っておりましたものが70台ほど本校にございます。随時、今日はあのクラス、明日はあのクラスというような形で使いながら進めております。

そして、今日はタブレット端末と全体で見ることができる大きな電子黒板とをリンクをさせまして、教員が指導に使っておりました。こういうことをすることによって、紙の上では一遍書いてしまったらなかなか消せなくて、子どもたちがイライラしてくるところを、ああいった道具を使うことによって、何度も何度もやり直しがきくと、しかも元どおりにきれいに戻るといったところ、これがいろいろと子どもたちのスムーズな学習に役立っています。

あわせて、ほかのクラスでも使っておりましたが、パソコンの中にデジタル教科書を導入していただいております。このデジタル教科書は、頻繁に教員も使っておりまして、国語ですと、スイッチ一つで国語の文章が、物語の文章を音読してくれるようなシステムがございます。非常に使いやすい、そして、子どもたちも興味を引きやすいという部分もございまして、今、本校では最も稼働している機器になっております。

教員も、もしかしたらデジタル教科書がなくなったら授業ができなくなるのではないかと心配するぐらい頻繁に使っております。私も、何度か使って授業をしましたが、やってみるとやはり使いやすく、やりやすいものでございます。

課題としましては、これをさらに子どもたちのいわゆる学び合いにどう使っていけるのかという、これはもう教育の指導方法の研究ということになりますが、こちらのほうに私たちも意識を集中させていく必要があると感じておるところでございます。

最後に外国語教育でございますけれども、本日はスウェーデン出身のALTのエリア先生と、それから専科教員ですね、それから担任、この3名でもって英語の授業をしていました。

ALTの先生がいらっしゃるということは、非常に大きいことで、要は英語を使おうという空気が教室の中にでき上がるということが、非常に大きいと感じております。私も、日本人の先生に聞かれて答えるのと、目の前に外国の方がおられて、そして、英語がそこから発せられるというのは、やはり英語を使おうという意識に大きな差が出てくるという、皆さんも経験してきた事柄だと思いますけれども、同じ状況が教室でもございまして、エリア先生がいらっしゃる時とそうでない時と、やはり両方とも授業はあるわけですが、子どもたちの英語を使おうという空気というのが、はるかにやはりALTの先生がいらっしゃるほうが強いということは、実感しております。

その空気というものが、子どもたちが使おう、使おうという意識、つまり意欲に変わ

ってまいりまして、非常にスムーズに英語の活動ができていると思います。

A B Cを書く、それが正しく書けるということを指導するのは、平仮名の指導を応用すればいいわけですから、日本人の教員、非常に長けたところがございますけれども、ただ、話すということに関しましては、あるいは使うということに関しましては、配置していただいているA L Tの効果というものは、絶大なものがあるなというふうに思っております。

私どもも、少なくとも学期に1回もしくは月に1回程度は、エリア先生そのほかA L Tの先生方から直に教職員が英語の研修を受けております。やはりエリア先生に話しかけられると、日本語では答えられません。英語専科教員に英語で話しかけられると、思わず日本語で返してしまうのですが、やはりそのあたりの空気というのは違いました、教職員もやはり意欲が、英語を使おうというふうになるで違ってまいります。

今後また、来年度からはいわゆる先行実施ということで、さらに英語教育を推進されるのですが、そちらのほうでも力を尽くしてまいりたいと考えておるところでございます。

今日見ていただきました3本の授業に関しまして、思うところを述べさせていただきました。

以上でございます。

○藤本教育部長

ありがとうございました。

先ほどの授業視察や、ただいまの校長先生の説明も踏まえまして、御感想などを一言ずつ、お願いしたいと思います。

まず、教育委員さんからコメントをいただき、その後、市長、教育長にコメントをいただきたいと思います。

それでは、山本委員さんから、順によろしくお願いします。

○山本委員

失礼します。今日はどうもありがとうございました。自分が勤務した学校ですので、とっても懐かしく授業を拝見させていただきました、校舎も含めてですね。

地域との連携の話になりますが、これを始めたのが平成20年ですか、学校支援地域本部事業を、文科省の指定を受けて始めたのがきっかけですね。それから10年、途中、平成24年には、文部科学大臣表彰もいただきまして、そのころ、地域とのつながりの一つとして、1年生がああやって、地域の方々と交えて昔の遊びを展開してこられた。それが脈々と今も根づいているということに、まずは敬意を表したいと思います。地域の方々も、私がいた当時とは世代がかわってきているんだなというふうに思いますので、やはりこういった次から次に人とのつながりが変わってくる中で、要になるのはやはりコーディネーターだなと。ですから、地域コーディネーターを、大事にするという言い方はおかしいけれども、ここを充実させていかないと、地域とのつながりは絶えてしまうというふうに思います。

だから、山口市全体で、今十分充実されているのですけれども、ますますの充実を望みたいなところと、それから校長先生のお話にもありましたように、地域の方々とつながりからいうと、学校がいかに地域の方々に返していくか、いわゆる地域貢献というふうなスタンスに立ったときに、この学校に来ることが何よりも楽しみだと、生きがいになるといった心のつながりがますます展開されていく中で、醸成されることが必要だろうなというふうに思います。

それから、ICTに関しましては、次から次へと画面が変わって授業展開されるというのは、すばらしいことだなと思いますし、また、今から子どもたちも、そういうものに流れていく傾向というものはあるだろうと思いますので、ますますこれは充実させていかなければいけないと思うのですが、やはりそんな中で、先生、動きませんか、もとに戻りましたといった個別のトラブルに対してどう対応していくかというのは、今からの機器の充実に求められるところだろうと思います。

もう一つは、どの先生もそんなトラブルでも平気で対応できるような研修も必要なのかなと思います。ただ、懸念されることは、あまりにも情報量が多くて、子どもたちが消化しきれない場面が出てくるのではないかというふうに思います。やはり子どもの消化しきれ、消化可能な情報量を教員がしっかりと把握して、デジタル教科書なり、あるいは映像による資料なりというものを提示していく方法を学ばないといけないと思います。

それから、外国語に関しては、昔はJETプログラムで派遣していたALTをプロポーザル方式で、民間の派遣会社にかえていったのが、ちょうど私が市で勤務させていたところなんですけれども、これで莫大な予算をいただいて、しかもそれが年々増えていって今の状況。ALTというのはやはり大事な存在だなと、校長先生がおっしゃるように思います。

ですけれども、やはりこれからは教員が主体的にこの学習を仕組んでいかなければならない。そうしたときに、やはり先生方の資質向上というのは必要ですけれども、でも、免許をもらってないのですね。免許をもらってない先生に英語をやれというのは、大変酷なところがあって、実は校長会の全国組織では、文部科学省のほうに、英語の専門教員を小学校につけてくれという働きかけを実はしてきました。ですから、やはり地方自治体の行政も、県や国に向けて、専門教員をきちんと配置してもらうように進めないといけないのかなと思っています。

いずれにしても、私が思うのは、ALTにしても、今日のふれあいにしても、ICTにしても、教育方法なんです。ものすごく便利なことはわかっているんです。便利だけれども、その便利なところが、教育原理に振り返ったときに、どの教育原理を指してこれが便利だと言っているのかというのは、私たち、教育のプロであるがゆえに、そこをしっかりと把握しておかないと、教員の側が崩壊していくんじゃないかなというふうな思いをして、今日の授業を拝見しました。長々とすみません、ありがとうございました。

○竹内委員

今日は大変貴重な授業を提供していただきまして、ありがとうございました。私は大

殿小学校には初めての学校訪問です。子どもが、挨拶も元気よくしてくれまして、大変すばらしい学校だなと思います。

地域とともにある学校づくりというようなことで、今日来られた講師の方は、見守り隊の方ですかって、お聞きしたら、いや、そうじゃないんですよっていう話だったのですけれども、でも、ああやってたくさんの方に来ていただけると、やはり先ほどから話が出ていますコーディネーターさんの力によるものが大きいと思います。

こういうようないろんな、お正月の遊びを中心としたような、今日は取り組みだったと思うのですけれども、子どもが、今回が初めてみたいな感じで、まだまだ今からもうちょっと練習しないと上手にならんなということも思いました。

こういうようないろんな学習、伝統行事等をやっていくことで、地域の皆さんともつながるし、子どもも地域の一員としてそういう経験を積んでいくことになると思います。大事な、大切な勉強をしたというふうな授業だと思いました。

それから、こういう自然体験、生活体験、お手伝いなどをすることで、子どもに自主・自立性、積極性、協調性というものが身についていく。そのことは、同時に自己肯定感にもつながっていくということです。そういうことについて子どもたちは未経験ですから、お年寄りからいろいろ教えていただくことが、疑似体験にもなるし、実際の体験にもつながっていくことになるというふうに思いました。

あと、地域の学校として、先生方も大変でしょうけれど、頑張っていただけたらというふうに思います。

それから、ICT教育についてですけれども、本当に今日の授業を見せていただいて、大変有効なツールだなというふうに思います。これは、今、ここでやっていることは、恐らくずっと広がっていくし、以前からへき地教育でも結構使われていたと思います。それをこういう形で、実際に子どもの中に入っていくことになって、このことがより効率の良い授業につながっていくというふうに思います。タブレットあるいはパソコンもどんどん整備されていきますから、インターネット回線の速度を上げていくというようなことも必要になってくるかなと思います。

外国語教育ですけれども、今日は、子どもたちが前に出て、恥ずかしさを抑えながら、前で実際にやっておりましたけれども、日ごろからやっていくことで、より主体的な、人とかかわろうとする力とか、意欲とか、あるいは英語力ももちろんついていきますけれども、コミュニケーション能力がついてくると思います。私、今日を振り返ってみると、中学校、高校、大学と、7年ぐらい英語をやったんですけれども、当時は中3までの教科書をしっかり暗記したら十分話せるよというような話も聞いていたのですが、努力不足がありまして、前へ進んでおりません。最近、楽天などの企業では英語をよく使っているというふうに聞いておりまして、そういうのを聞いていますと、これからはやはりしっかりと教育に取り入れていくということは大事なことだなと思っております。

○横山委員

今日、3つの授業を見せていただいたのですが、1番目の昔の遊びを楽しもうという

ことで、地域の方が、たくさん来ていただいて、うれしく思います。ちょうど今日、小郡小学校の授業、学校訪問をさせていただいたのですが、そのとき、手伝いに来られている方の名札とか、子どもたちが何をやりたいかという活動のポスターを、先生と子どもたちと一緒にグループになって作ることで、来られた方の名前を覚えるとか、最初に会ったときに親しみをつくれるようにという形でされていました。こちらも全部、来られている方の名札は手作りの名札を使われていて、非常に感心をいたしました。

やはり、教えてもらうことが基本ですが、本来、子どもというのは遊びの天才ですから、それを基本に自分たちでいろんな遊びをつくっていったって伸びていくと思っております。

次のタブレットの授業ですけれども、やはり子どもというのは、長時間集中して、目の前のことだけでというのはなかなか難しいので、タブレットと画面とを交互に集中したりして、きちっと勉強してもらうというのがいいと思います。

そして、外国語活動ですけれども、実は昨日、子ども会の研究大会が四国でありまして、記念講演として落語家さんが来られていて、最初の枕で出るのが英語の授業です。その方が言われていたのが、もう60過ぎの方ですが、昔、英語で最初に習ったのが、「アイアムアボーイ」、そんなの誰でもわかる、実際にアメリカの人がそういうことをいうだろうか。それで、「アムアイアボーイ？」と、子どもたちに聞かれたときに、その方、「自分でわからんのか」と言ったら、さすがに先生に怒られたそうですが、今日みたいに、グループになって1対1で、実際につかえる英語、それもネイティブの方、ALTさんと一緒にしゃべって覚えるというのは、やはり本当すばらしいなと、それも小学校のころから習うというのは、すばらしいことだと思います。

それで、1番目の生活も含めて、やはりどの授業もある程度グループで話し合いの場と、集中して1人でする場ときちっと分けられていて、いいなと思いました。

○佐々木委員

今日は、どうもありがとうございました。地域の方と昔遊び、それからICTを使った授業、外国語活動の英語、バランスのとれた3つの授業を拝見しまして、潤いのある学校であるという様子が伝わってまいりました。ありがとうございました。

特に、学校が地域の方の居場所にもなっていて、山口県は全ての公立小中学校がコミュニティ・スクールになりましたですけれども、その中でも大殿小学校は、それをリードする存在、牽引をする立場にあるというふうに認識しておりまして、今日、そのことがよくうかがえる場面を拝見したというふうに思っております。

それから、ICTを使った授業ですけれども、これも、こちらですごく長いこと取り組んでおられると聞いておりますし、実際の場面でよく理解できました。ありがとうございました。

それから、英語での活動ということも、先ほど校長先生も言われていましたが、ALTの方がいらっしゃるということで、英語を使うという空気になっているということが、よくよく実感できた、そういう授業でした。ありがとうございました。

それで、この3つを仮に重ね合わせてみたときに、例えば、英語のホームページを使

って学校を紹介する中で、地域の方を迎えての昔遊びを紹介する。コミュニティというのは、いわゆる地域もありますけれども、例えば、ネットの中にコミュニティがあるとか、あるいは外国であっても情報発信をして、賛同する方が県境、国境をまたいで興味を持ってくださるといようなこともあるという、そういう時代に入っておりますので、大殿小学校さんに限ったことじゃないでしょうけれども、今、外国の方、特に日本の小中学校、高校の情報、個別の学校情報を求められているということもありますので、機会があれば市としても、英語によるホームページでの情報発信に努めて、そこからいきなり姉妹校とかそういうことにはならないかもしれませんが、こういったネット環境を使つてのコミュニケーションと、新たなコミュニティの形成ということも考えられるかなというふうに思つて、拝見した次第です。

いずれにしても、今日は、とてもありがとうございました。

○佐藤委員

今日は、ありがとうございました。まず、地域の遊びですけど、先ほど山本委員さんの話にもあったように、ここで歴史もあつて、地域の方たちもとってもなじんでいらっしゃるつて、自信を持って接していらっしゃるという表情とかが印象的でした。

ただ、やはり個別に支援が必要なお子さんが中にはいて、そのところは先生方がフォローされていたのですが、その先生方のフォローが、地域の人たちの出番を大切にしながら、陰で支える力というか、黒子になって支えている力ということが、とても印象的でした。

次のICTの授業は、最初に初めて電子黒板が入つて、そうしたらインターネットにつながつて、デジタルな資料がたくさん入るようになってということから、また一歩進んで、双方向ということの良さが素敵だなというふうに感じました。山口市は、今、1人に1台あります。2人に1台あることと、1人に1台あることは、全く違うと感じていて、例えば理科の実験とか、5人で1つの実験をすると、積極的な子はやるけど、消極的な子は、触りたいけど触れない。2人に1人だと、きっと同じような組み合わせになると思いますが、やはり1人に1台あるということのメリットというのは、2人で1台の倍以上、何倍も効果があるというふうに感じました。

私も英語が苦手ですけど、今の時代に生まれたかったなと。今の時代だったら、きっと私だって英語が大好きになったんじゃないかなというふうに感じました。

今日の最初の地域の授業でのコーディネート力だとか、ICTを使う力だとか、英語の力だとか、今、やはり小学校教員に求められている力というのが、以前と比べてどんどん広がってきていて、私自身も養成校に勤務しながら、これからの先生を目指す人たちの幅の広さとか、そのあたりのところの難しさをつくづく感じました。

今日は、どうもありがとうございました。

○渡辺市長

今、委員さん方、いろいろコメントをされたことそのものだろうと、そんな気がしますけれども、まず今日は、コミュニティ・スクールの成果といいますか、そういったこ

とを見させていただきました。また、ICTの活用、外国語学習という形も見させていただきました。何か大殿小学校をあげて、ICT教育、そしてまた、英語学習に、一生懸命取り組んでおられることに非常にうれしく思いましたし、ある意味で安心をしました。こういった形の中で取り組んでいただいて、そういう現場を私ども見させていただきました。本当、ある意味の安堵感を感じさせていただきました。

タブレット端末、電子黒板につきましては、私ども、県下の中でいち早く取り組みまして、今年度中には、市内の全小学校のいわゆるタブレット端末と電子黒板の配置が終わりまして、来年度中には中学校も全部完備できますので、いろんな形の中で活用がさらに進んでしていくのかなという気もしております。

それからまた、外国語指導助手も、教育委員会の皆さん方、一生懸命に要求もされてこられて、今年はALTを2名増員していただいて小学校は8名体制になってきました。今日もその授業も拝見させてもらって、いい形で大殿小学校で活用していただいているなというふうに思いましたし、先ほどありましたけれども、英語の専科教員といえますか、そうしたことの重要性をつくづく感じました。そうした形の中で、免許制度、いろいろな形がありますけれども、積極的に配置していくことで、ALTの配置というのがより生きてくるかなというふうな感じでしたし、校長先生からお話がありましたけれども、ALTについては、来ていただいていると、英語を話さなきゃいけないかなというふうな空気になっていく、まさにそのとおりですね。そして、自分たちが英語で話して、そしてALTと十分通じるとなると、自分たちの英語は確かなんだと、いわゆるどこでも通用するんだと、こういうふうな自信にもつながりますね。つくづく、いい形だなというふうに思いましたし。

そしてまた、今日の交流学習もいい形ですね。コーディネーターさんはコーディネートしてくれていらっしゃるということで、それこそがまさしく現在のコミュニティ・スクールの体制整備として、効果が徐々にできているかなと。山本委員が、さっきいみじくもそういうふうな感じで言われていましたが、随分進歩してきているということを思いました。いろいろな方々が交流学習ということで、地域から参加していただいているということですね。

そしてまた感じたんですけれども、学校、生徒さんよりはコーディネーターさんや、集まっている地域の人たちのほうがうれしそうに学習しておったような感じがしたんです。随分、いいことだなというふうな感じを受けました。

いわゆるICT教育を見ましても、また、英語学習を見ましても、そうした地域交流を見ましても、いきいきとして、生きた学習をしているような感じを受けまして、非常にいいなと思いました。

そして、ICT教育の中でも、タブレット端末と電子黒板を使いながら、算数の足し算を生きた形で地図の中で使っていくというのは、ハッと思いました。算数というと、それを生活の中に生かしていくというのは、あまり感じなかったのですが、今日はICT教育をされながら、算数といったものを生活の中に生かす。それこそ自然災害があったときに、避難コースをどうするかということ、避難通路というのを、算数の中でもやれるんだと、そういうことも感じました。そして、それに時間がどのぐらいかかる、

もう少しかかるとなると、子どもさんや大人が歩く時間、そして、障がいがある方が歩く時間、こういう授業を受けていると、それぞれのコースや時間といったものが違う、それが算数というものを通じて生活に生きてくるということですね。

そして、英語についても、ランチメニューという教材がいいですね。ランチメニューという形の中でやると、何か会話をしようかという感じになる。私どものころの教育は、英語というと、読んで、文法でというふうな感じであつたんですけれども。

特に、今日は5年生ですか。読み書きの段階で、メニューも盛んに書いてあるものを出してやっておられたですね。ですから、教育指導ということも頭に置かれながら、読む、書くというレベルのところをやっておられる。ですから、今日、ぱっと見て、3、4年生のところも興味を持ちました。3、4年生は、話す、聞くというふうなことも含めて、生きた教材というか、いろいろなものがつながって生きているような感じがします。そして、さきほど算数のことを言いましたけれども、あれは生活の中に活用できる、非常にいい教育じゃないのかなと思います。うれしいですね。

○藤本教育長

本当に今日はありがとうございました。大殿小学校は、これまでも何度か訪問させていただきました。とにかく一番大事にしているのは、子どもたちの学びの姿ということで、今も市長さんのほうからお話がありましたが、本当に子どもたちが生き生きとした表情で主体的に取り組んでいる姿が、とても印象に残っております。これも、多分校長先生のマネジメント力、リーダーシップによって、チーム学校で取り組んでいただいているのかなというふうに思いました。

1年生は、地域の教育力を活用して、本当に楽しそうに授業をしている姿がとても印象的でしたし、授業に参画されている地域の方々のまなざしというのが、とても温かく感じました。こういった地域の方々による学校支援というのが、子どもたちの学びにすごく大きな影響を与えていると思っております。

3年生は、ICTを活用した授業ということでしたけれども、今、市長さんのほうから、まさに生活に根差した学習とありまして、まさにそのとおりだなというふうに思いましたし、視覚で捉えることによって、すごく理解度も高まっていくのかなというふうに思いました。

教員にとっては、全員の子どもの学びのプロセスが、全部列挙してすぐわかるようになっていましたし、また、前回の授業の振り返りもできるというメリットもありますので、すごくうまく使えば学力の向上にもつながるのかなと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

最後に5年生、外国語活動の授業ということで、今日は専科教員とALTによる授業ということでしたが、本当に子どもたちの良さを認めながら、実践的な授業であつたかなというふうに思っております。

先日の宇部の研修会で、今、中学生、高校生は、書く、話す力が非常に弱いということと言われていましたけど、そういった中で、幼少のころから、早い時期から英語に慣れ親しむということは、すごく大事だなということを再確認いたしました。

こういった実践的な授業を、ぜひ山口市内に広めていきたいなというふうに思っております。どうもありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。

まだ、時間がございますので、皆様から御意見等ございましたら、どなたからでも結構でございますので、御発言をいただきたいと思います。

○渡辺市長

いいですね。今日、各教室を見させていただいたので、電子黒板はもうそれぞれの教室にありましたね。実際に電子黒板を活用されながら、学習しておられて、かなり活用しておられるのですね。

○磯村校長

国語と算数は、デジタル教科書を導入していただいておりますので、国語と算数では必ずデジタル教科書を活用しています。

○渡辺市長

なるほどですね。効果というか、やはり電子黒板があると、自然に先生側のほうは教えやすいんでしょうか。また、子どもたちのほうは学びやすい、その辺の評価のようなものは、きちんとした話でなくても、感じとしてはどうですか。

○磯村校長

電子黒板の機能にもよるわけですが、例えば、かつて紙しかない時代であると、何ページの何番をやりましょうという先生の指示を聞いて、子どもがそれを、聞いて問題を解くという形になります。ところが、電子黒板の場合は、もちろん同じ指示もするんですが、教科書の何番をといったら、その問題だけほんと大きくなって表示される。そして、電子黒板の中のある機能は、そこに図が入ります。そして、子どもが、アだと思います、イだと思います、ウだと思いますと言ったときに、それを確認するためのアニメーションが出たりする機能もございます。もちろん、図形の勉強です。

ですから、過去であれば、教員が夜なべ仕事で1本1本、紙の棒のようなものをつかってやっていたことが、それが自動的にできますので、教員が明日どうやって授業を進めてやろうということに意識を集中させることができる。これは、国語と算数のデジタル教科書の非常に大きな役割だというふうに思っております。

○竹内委員

それと、登下校のときに、荷物が少し軽くなるというようなこともあるでしょうね。

○磯村校長

それは、検証しておりませんがもしかしたらそうかもしれません。

○磯村校長

また、タブレットで申せば、今日、3年生の場合は、全ての子どもたちは、同じ画面をタブレットに表示しておりましたが、これは、やはり非常に重要でして、1人1個ずつ触っている経験を積み重ねていく、5、6年生になりましたら、僕はこんな作ったよって、画面上でそれぞれが作ります。そして、それを友達に見せる。お互いが、みんなばらばらなものを作っていくわけです。例えば、掃除の仕方を低学年に教えてあげようというような、これは国語の勉強ですけど、どんな言葉でどんな図を使ってやったら良いかというのを、それをめいめいが自分で探ってきて、自分でプレゼンをつくるわけです。ですから、高学年になりましたら、出ている画面がばらばらということも出てくるわけでございます。

そんなふうにしていこうと思えば、やはり3年生ぐらいから、今日やっておりましたように、一人一人持たせて、使わせて、そして、彼らはまだ入門期なので、トラブルがあったときに、1人だけ自分で直している子もいましたけれども、ああいった子が徐々にこれからふえていくだろうと思っております。場合によっては、着任したばかりの教員よりも、はるかに子どものほうが長けているというような状況が出てこようかと思っております。

○渡辺市長

先ほども話がありましたけれども、タブレット端末等を使うときに、どうしても、いわゆる機器のトラブルが起きますが、先生にとっては悩みの種になりますか。子どもさんたちの、トラブルが起きた一人一人のところへ行って、解決することになると難しい。やはり補助職員が要るような形になりますか。

○磯村校長

性能が上がってきていますので、そういったことも減ってはきています。ただ、山口市では、情報支援員といった方も雇用しておられますので、私どものほうでこういった課題があった、こういった問題があったということは、担当の者が記録をしております、そして、本校に来ていただけたときに、そのことについてまとめて質問をし、指導を受けることを実際にやっております。また、情報支援員の方に直接電話でお聞きすることもあります。授業しておりましたものが、本年度のICTの担当者ですけども、その者と情報支援員が頻繁に連絡を取り合っていくことが可能です。

○山本委員

私たち、教育委員として、市内の小学校、中学校を学校訪問させていただいていますが、以前に比べて授業に電子黒板を使っている場面が増えてきたという印象です。これを、ある先生に山口市は今充実してきているから使ってみてよと、どんどん使っていく中でいろんな課題やトラブルも見えてくるから、そこを改善していくような形で市も取

り組むからという話をしたんです。いや、それでは困ると、教員としては、常にスムーズに機械を使いたい、だから、完璧なものをよこしてくれないと、私たちは使えませんかと言われて、ひどく怒られたことがあるんです。私は、その考え方はちょっとどうかなとは思っています。

やはり使っていく中で、今おっしゃったように、トラブルがありますけれども、それはみんなで協力しながら改善していくというのが、私たちが一緒に歩む者としてのスタンスじゃないかなというふうに思っています。

ただ、別の話になりますけれども、山口県教育会が主催する研修会で、他市の先生方とお会いする機会があって、山口市はこういう状況ですよと説明すると驚かれます。だから、恐らく他の市に比べれば、物すごく充実していると思います。それは、やはり山口市の今後のメリットとして生かして、特性として生かしていかなければいけないと思っています。

ただ、先日宇部市で研修会があったんですが、その際、宇部市の取り組みをお聞きしたら、今後は外国語活動でロボットを使っている。ロボットと日常会話の練習をしているというふうな実践もありました。それはそれで、また宇部市の特徴だし、山口市の現状をもっともっと充実させていけば、山口市の大きな武器になると思います。

○渡辺市長

おっしゃられるように、ＩＣＴもそうですし、英語学習もそうですし、先生と子どもさんたちがともに学習するということかもしれませんね。我々、今までは生徒は教えてもらう、先生は教えるということがはっきりしておったけれども、これからは電子黒板だとか、タブレット端末だとか、また英語学習とかということになると、ともに発展し、ともに学習するというふうな今までの教育のパターンと違ったようないい形ができるかもしれませんね。

○藤本教育長

なかなか活性化してない学校が、若い先生が中心となって、ＩＣＴ機器を活用した授業実践、授業改革に取り組むことによって、学校が活性化してきたというか、ベテランの先生に逆に刺激を与えていったということで、好循環を与えたという学校もあります。

○渡辺市長

もう一つ、今日、子どもさんたちがＩＣＴを使用しているときと、ノートに書いていることもありましたが、ＩＣＴのところは物すごく、すばらしい操作をしていましたが、ノートに書くほうになると若干ぎこちないところもあった。ペーパーレスの時代に入ってきているんでしょうね。

○磯村校長

書くときには、書く作業というものはまた必要になってくるわけですがけれども、それ

こそ情報を集めたり、選んだりというところのスピードは、やはり今ごろの子どもたちは速いと思います。

ですが、文章化していくことに割く時間そのものが、削られていることは否めないと思います。

社会や理科といった、算数以外の教科や、もちろん国語も長らくそうですけれども、書く活動を非常に充実させていく方向では取り組んでいるところです。情報を見て、探して、触れて、選ぶというところに、どうしても日常生活において我々は時間を多くとっていますけれども、それをそのまま学校生活に当てはめるのはどうかなというところはございますから、やはり鉛筆と紙という世界は、これはこれでとても大事にしていかなないと、とは思っております。

○渡辺市長

我々の想像を超えて変化していますね。どうですか、せっかく現場に来られたから。

○佐々木委員

いや、本当に私なんかも同感ですね。想像できない、どうなっていくのかなと、10年後、20年後、怖くもあり、楽しみでもあります。

○渡辺市長

今日、現場で見せていただくと、隔世の感があるなど、変化している、そういう気がしましたですね。これからまだまだ変わっていくのでしょうか。

○藤本教育部長

それでは皆様、他にもいろいろと御意見交換されたいことが、たくさんあろうとは存じますが、そろそろ予定時刻を迎えますので、ここで、今日の会議に参加いただきました磯村校長先生に、改めてお考えや感想などいただけますでしょうか。

○磯村校長

今日は本当にありがとうございました。本校の子どもたちの姿を見ていただけたということも、望外の喜びでございますし、また、力を入れておりますコミュニティ・スクールやあるいはICT、それから外国語教育につきまして、さまざまな御感想あるいは御意見を賜れたということ、非常にありがたく思っておりますのでございます。

今後は、地域の中にある学校として、子どもたちが一生懸命、子どもらしく生き生きとあること自体が地域貢献だということは、これは一番ベースであるんだと思います。そこを大事にしながら、教職員それから子どもたち、そして保護者、地域の方々とともに学校を盛り上げてまいりたいと思っておりますので、今後とも厳しい御指摘もいただきたいと思っておりますし、また御支援いただけたらと思っております。本日は、どうもありがとうございました。

○藤本教育部長

ありがとうございました。

それでは、最後に、教育長、市長に一言ずつ頂きたいと思います。

○藤本教育長

第二次山口市総合計画の重点プロジェクトの一つに、教育、子育てなら山口を掲げております。本当に今、施策を進める上で、本当に市長さんが教育をすごく大事にしていたいただいております、本当に予算面あるいは教育環境の整備等々、バックアップしていただいているということに感謝申し上げたいと思います。学校現場からも、大変感謝の言葉をたくさん、いただいているところでございます。

本年度は、施策の核となるのが、今日の授業でありましたように、コミュニティ・スクールあるいは地域協育ネットを活用した事業、それからＩＣＴを活用した授業改革、あるいは外国語教育、あるいは読書活動の推進等々を中心として取り組んでいるところでございます。

今日改めて思ったのが、コミュニティ・スクール等においては、やはり子どもたちの豊かな学びの成長を目的にするということで、一つのツールとして、学校をプラットフォームとして、いろんな世代の方々が集まることで、人のつながり、横のつながりができてくる。人のつながりができることによって、またそれが地域力の向上あるいは地域づくりにつながるのかなということを再度確認いたしました。

と同時に、子どもたちの、先ほどから出ておりますような自己肯定感やふるさとを思う心の醸成にもつながっていくのではないかなというふうに思いました。

昨日も、大殿地区でふるさと祭りがございました。子どもたちがたくさん地域に出かけていって、ボランティアをしている姿がとても印象に残っておりますし、また、逆に今日みたいに学校に来て、たくさんの地域の方々が学校を支援していただいている。こうした学校づくりと地域づくりの好循環、これを図っていくことがすごく重要であるということを、再認識したところでございます。

それと、先ほどから出ておりますように、今後、グローバル化、情報化が進む中で、本当に予測困難な時代を生きていくことになる。そういった中で、子どもたちにさまざまな資質、能力を身につけさせないといけない。その一つが、やはり学びの基盤となる言語能力かなというふうに思いました。特にグローバル化に向けての外国語教育、外国語、特に英語力、これやはり必要不可欠だなと思いましたが、そのためにいろいろ先生方の授業力を磨いていくことが必要だなということを思いました。

それと今、もう一つは、情報活用能力それからコミュニケーション能力、これも向上させていかないといけない。そうした上で、一つのツールとして、今日のようなＩＣＴを使った授業実践、これもすごく子どもたちには有効であるのかなということを思いました。

また、いずれにせよ、全国トップレベルの教育環境づくりに努めていきたいと思っておりますので、市長様におかれまして、また今後とも予算面等々におきまして、また御配慮いただければというふうに思っているところでございます。どうもありがとうございます。

いました。

○渡辺市長

そうですね、今日は、授業視察をさせていただいて、校長先生をはじめ教員の先生方、そして子どもさんにも、地域の人にも御協力いただきまして、本当にありがとうございました。感謝を申し上げたいと思います。

そしてまた、校長先生にはこうして会議にも加わっていただきまして、いろいろな御意見もいただき、現場の声をいただき、本当にありがとうございました。

今日は、実際に授業を見させていただいて、その現場の中でこうやって、総合教育会議を開催できて、本当に有意義だったと思います。こういった形の中で、委員の皆さん方も実感をされながら、いろいろ思いを述べていただきましたし、本当に実のある会議になったというふうに思います。時々こうした形で、現場へ出て、こういう会議をすべきだなというのをつくづく思いました。

そしてまた、今日、いろんな形の中でICT教育、それからICT機器を使った教育、それからまた外国語の学習、そして、いわゆるコミュニティ・スクールの地域交流といえますか、こうしたこともいろいろと見させていただきました。

まだまだ途上にあるようなことについては、これからさらに整備をしていかなければいけませんし、また、人材養成、育成といえますか、そういった形も進めていかなければなりませんし、基盤の整備もしていかなければいけません。そうしたことにつきまして、今日意見交換をしていただいた中身を咀嚼していきながら、予算編成にも取り組んでいこうと思います。

ちょうど今、私ども、予算編成に一所懸命取り組んでいるところでございますので、そうしたことの中で、今日の会議を意見を生かさせていただきたいと思います。

また、いろんな形の中で、教育委員の皆さん方、また、現場の先生方に、これからも山口の教育の発展のために頑張っていただかなければなりませんので、どうかよろしくお願いいたします。

今日は、本当に有意義な会議になりました。ありがとうございました。

4 閉会

○藤本教育部長

ありがとうございました。予定の時刻となりましたので、本日の会議を終了させていただきますと存じます。

皆様、大変、お疲れさまでした。今日はありがとうございました。

午後3時30分 会議閉会